

平成22年度 愛知中学校入学試験問題

国 語

注 意

1. 「はじめ」の合図があるまでは、この「注意」をよく読んでください。
2. 国語の試験時間は50分です。問題は□一・□二です。
3. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙には必ず氏名、受験番号を書いてください。
5. 問題の内容についての質問には応じません。
印刷のはっきりしないところがある場合には、だまって手をあげて
係の先生にきいてください。
6. 解答に字数制限がある場合は、句読点を一字としてかぞえます。

一

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

私たちは他者の顔の表情を見て、それが笑っている顔なのか、泣いている顔なのか、怒っている顔なのか、驚いた顔なのか、赤ちゃんも非常に早くから表情は理解しているらしい。

たとえば生後二カ月ころになると、目をしっかりと合わせてニツコリ笑うようになるが、そうして笑いあう関係ができるようになってから、^①笑っているおとなの側(たとえば母親)が、わざと急にさめたまじめな顔をしてみせる。それでも赤ちゃんはしばらく笑いつづけるが、母親がなおまじめな顔をつづけると、やがて赤ちゃんの方でも笑いの表情がさめてきて、そのうち渋い顔になって、泣き出す。赤ちゃんはこここのところで、少なくとも相手のおとなの表情の変化に気づいているし、笑い顔がたがいに快さをくすぐり合う表情として機能しているのを知っているといつてもよい。

それにしても他者の顔を見て、どうして表情がわかるのであろうか。じつさい相手の顔の表情は目でしか見えないのに対して、自分の顔の表情は目で見えない。大きくなれば□で自分の顔を見ることも可能になるが、そうして□で自分の姿を確認できるようになるのはおよそ一歳半以降のこと。少なくともそれまでは自分の顔を目で見る※すべがない。そうだとすると、たとえば泣いている顔を見て、

その特有の表情のパターンが、^②泣いているという感情の表れであることを、私たちはどのようにして理解できるのであろうか。

泣いている顔を二つ並べて見れば、その顔に表れた表情筋は二つともほぼ類似したパターンを示すので、その二つの顔が同種の表情をなすものだということはわかるかもしれない。しかしそれが「悲しい」感情の表れであるとの証拠は、その顔そのもののどこを探してもない。つまり泣いている顔を見て、それが悲しい表情だとわかるためには、外に見えるこの他者の表情と、自分の泣いたときの内からの自分の感情とを同じものと思えなければならない。ここでも私たちは、※類としてあらかじめこの二つをつなぐ何かが、人どうしの身体の中に予定されているものと考え、以外にない。

おとなになれば、私たちはしよつちゆう□を見るようになる。そのために自分の顔や表情も※熟知しているような気分になってしまう。しかし自分の泣いているときの表情や、笑ったときの表情を^③まともに見たことのある人は、まずない。

写真やビデオになれば、自然な笑いがおさめられることもあるかもしれないが、そこに映っているのは過去の^④それであつて、いま内側から生きている感情と重なり合うものではない。その点、鏡ならばそれを同時に捉えられそうにみえる。しかし、じつさいには自分が笑っているとき、

その笑っている自分の顔を見たとき、もはや笑いつづけられなくて、さっと笑いがさめてしまうものである。泣いているときも同じである。ほんとうに悲しくて涙を流している人でも、その目の前に□を差し出されて自分の顔を見てしまうと、もう泣きつづけることはできなくなる。それでもまだ泣きつづける人がいるとすれば、それはよほどの※ナルシストと言わねばならない。

自分の表情を視覚的に捉えることには、そもそも無理がある。他方、他者の表情を内的に捉えることも、⑤私たちが他者の身体を内側から生きることができない以上、不可能である。ならば他者の表情の理解はほんらい不可能なことだということになるはずだが、私たちは日頃から、表情の理解が不可能とか、困難とか、ほとんど思いもしない。⑥現に私たちは他者のわずかな表情の変化にも敏感であるし、その表情の理解を土台にすることで人間関係の基本部分を成り立たせている。

表情は、ほぼ人類に共通であつて、微妙な表情は別として、人種がちがっても、それを読み間違ふことはまずない。含み笑いとかが、苦笑い、あるいは愛想笑いとかがいったものだと、同じく笑いでも文化差があつて、読み間違ふことがあるかもしれないが、⑦典型的な表情に関してはまず間違われない。そうだとすれば類としての人間のなかに、表情を通して人どうしわかり合う※メカニズムが、個の単位を越えて存在するものと考えねばならない。これは人間の身体

に埋め込まれた同型性の一つであつて、人は表情という顔の上にあらわれた一つの表現によつて、たがいに通じ合うようになっているとしか言いようがないのである。

(浜田寿美男著『私』とは何か ことばと身体の出会い 二部省略・改変)

※注

すべ：手段や方法。

類：似たものや事から。種類。ここでは同じ人類だということ。

熟知：くわしく知っていること。

ナルシスト：自分が大好きで顔やスタイルばかり気にするよう人のこと。

メカニズム：しくみやしかけ。

問一 傍線部①の試みは、何を確かめるための試みですか。
次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 赤ちゃんは二カ月ごろから目を合わせて笑えるかどうかと、笑い顔のほうที่安心するかどうかということ。
- イ 赤ちゃんと母親に笑いあう関係ができているかどうかと、笑い顔のほうที่好きかどうかということ。
- ウ 赤ちゃんに笑い顔とまじめな顔の区別がつくかどうかと、笑い顔のほうที่安心するかどうかということ。
- エ 赤ちゃんはまじめな顔より笑っている顔が好きかどうかと、母親と他人で反応が違うかどうかということ。
- オ 赤ちゃんがおとなの表情の変化に気づくかどうかと、いつまで笑いつづけられるのかということ。

問二 文中にある四つの□には同じ漢字一字が入ります。
意味がとおるように、文中から適切な字を抜き出なさい。

問三 傍線部②「泣いているという感情の表れであること
を、私たちはどのようにして理解できるのでしょうか」とありますが、人はどのような時に「泣いている感情」
を理解するのですか。解答欄に続くように文中から抜き出し、はじめと終わりの四字を書きなさい。

問四 傍線部③「まともに」はどの部分にかかっていますか。
次の傍線部ア～カの中から選び、記号で答えなさい。

まともに ア 見た イ こと ウ ある エ 人は オ 理解 ない。

問五 傍線部④「それ」の指し示す部分を文中から五字以内
で抜き出なさい。

問六 傍線部⑤「私たちが他者の身体を内側から生きる」と
はどのような意味ですか。次の説明の中から最も適切な
ものを選び、記号で答えなさい。

- ア 他者のまねをしてふるまう。
- イ 他者とほぼ同じ気持ちを共有する。
- ウ 自分を捨てて他者になりすます。
- エ 他者が考えていることを見破る。
- オ 他者を深く理解して親しくなる。

問七 傍線部⑥「現に私たちは他者のわずかな表情の変化
にも敏感であるし、その表情の理解を土台にすることで
人間関係の基本部分を成り立たせている」とはどうか
ということを意味していますか。次の説明の中から最も
適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人は本来、他人の心を理解できないので、よい人間
関係には笑いの表情が基本となるということ。
- イ 私たちが毎日他人と接する上で、よりどころとして
いるのは表情の理解であるということ。

ウ 人間関係がうまくいくためには、他者の心の中に自分を住ませる努力が必要であるということ。

エ 人はすべて他人の表情の示す意味を理解しているため、生活上で問題は起きないということ。

オ 人は自分の顔を見ることができないため、自分の気持ちより他人の表情で物事を判断するということ。

問八 傍線部⑦「典型的な表情に関してまず間違わない」とありますが、間違わないのはなぜですか。解答欄にあらうように、文中の表現を使つて答えなさい。

問九 次の中から本文の内容に合~~わ~~ないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他者の表情と自分の感情をつなぐものを、人間はお互いが持っていると考えられる。

イ 赤ちゃんは生後二カ月ぐらいで、人の表情を理解しているらしいと考えてよい。

ウ 人間の表情は、微妙なもの以外は共通性があつて、典型的な表情では人どうし共通である。

エ 人は他者の内面を理解できないはずだが、表情を理解することでうまく関係を保っている。

オ 人の身体の中には、あらかじめ人どうしが納得し合う仕組みが一つ用意されている。

二

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「綾ちゃんの髪はいい髪だね」

と言われることはたまにあつた。が、何かの本に、[※]器星の悪い女は髪をほめられる、ということが書いてあつて、^①なるほどと思つたことがある。きれいだ、きれいだ、とほめられる姉のそばで、一度もほめられずに育つということとは、これは客観的に見て大変なことだと思ふ。だが、よくしたもので、私はそのことでひどく傷つくことはなかつた。私の関心事は、自分の顔かたちや服装のことではなかつた。私は何の不満も抱かず、着るものはいつも姉のお下がりを着ていたし、長して浴衣などを着る時も、鏡の前で装うということはあまりなかつた。だから、うつかり裏返しに着て、堂々と[※]居敷あての白い布を外に出したまま、買物に行つたこともある。ほめられたことではないが、いまだにセーターの裏返し、あるいはうしろ前に着るといふあやまちも、なおつていない。娘時代、姉と二人で歩いてみると、十人の男が十人とも、皆姉の顔を見た。私は内心、^②どう、この人私の姉さんよ

と、^②誇りたい気持があつたから、仲のよい姉妹として育つた。この姉に会うたびに私は、今もつて、(姉さんらしい人だ)と思ふ。だが、女学校卒業以来、姉は常に私の妹に見られてきた。誰でも姉に会うと、姉を私の妹だと思ふいちがつて、

「お姉さんにはいつもお世話になっております」

などという。そう言われるのがおもしろくて、私はわざと、

「[※]マイ・シスターです」

と、姉を紹介するのだ。ただの一人も、彼女を私の姉と思つた人はない。姉には見えないが、しかし^③姉は幼い時からいかに姉らしいのだ。

私が五歳頃であつたらうか。ある夏の日、明るいうちに母と弟と三人で銭湯に行つた。[※]二丁半ほど離れたその銭湯の庭には、あやめの花がぞつくりと、見事に咲いていたことを覚えている。母より先に風呂から上がった私は、脱衣場で見知らぬ赤ん坊を膝に抱いた。その頃から私は赤ん坊が好きだつたのだから。ところがその子は、抱かれるや否や、私の着物をウンチで汚してしまつた。入浴する前か後かは知らないが、おしめが取られていたのだつた。

「よその赤ちゃんを抱いたりするから……」

私は母に叱られた。私の母は賢い人だと思つてゐるが、この時の叱責は私には納得出来なかつた。よその子を抱くことが悪いとは、子供心にも思へなかつたのだ。だが、^④そのことは別として、着物を汚してしまつたことは、悪かつたとも思つた。母は私の汚れた着物を持つて、

「すぐに迎えに来るから、ここで待つていなさい」

と、弟を連れて歸つて行つた。夏のことで、浴衣一枚しか着ていなかつたから、その一枚を持つて歸られると、着る物がなかつた。裸で歸るわけにもいかず、私は家人の迎

えを待つていた。だが、わが家からはなかなか迎えに来てはくれない。私は子供だったから、待てなかったのかもしれない。短い時間が長く思われたのかもしれない。私は裸でいつまでもその場にいるのが不安になった。私はついに帰ることにした。帰るといつても着るものはない。真つ裸で帰るわけにはいかない。と、どうしたことが、母は私の着物だけを持って、私の※三尺帯を置いて行ったことに気づいた。私はその三尺帯を肩から斜めに体に巻きつけた。か細い子供の体である。幅広い三尺帯である。ゆつたりと膝のあたりまで巻きつけることが出来た。あの時の、橙色のちりめん帯の感触は今も私は覚えている。多分その姿は、珍妙であつたにちがいない。風呂屋にいる人たちが笑つているのを子供心に感じながら、私はまた明るい夕方の街に出た。銭湯のすぐそばで、半裸の男が道路に水を撒いていた。男は驚いて、二メートルほどの長い柄の柄杓を持ったまま、まじまじと私の姿をみつめた。⑤私は広い道路の真ん中を、悠々と歩いて帰つて行った。恥ずかしい気がした。が、一方、裸ではないのだという気持があつて、誇らしい思いもあつたような気がする。つまり、三尺帯を巻きつけるとは、われながら名案と言いたところだつたのだろう。

家まで、あと半丁という所まで来た時、風呂敷包みを抱えて、私を迎えに来た姉に出会つた。姉は私の奇妙な姿を見て、

「まあ！」

と、実に何ともいえない優しい笑顔を見せた。そして、ふだんより何倍も優しい語調で私を慰め、太い柳の木の下で、ぐるぐる巻きの帯を取り、風呂敷の中の浴衣を着せてくれた。私はこの時、①ハジめて姉の姉らしさに触れたのである。私がようやく、自分以外の人間を意識する年齢になつていたのであろうか。きょうだい愛をたつぷりと私は浴衣と共に着たのであつた。

その後、この姉らしさはたびたび感ずるようになった。それは必ずしも「優しさ」となつて現れるとは限らなかつた。これはその翌年くらいの頃のことであつたろうか。夏休みで、近郊に住む従姉妹たちが、私の家にしばらく来ていた。彼女たちの住む家のそばには、※酒々たる※灌漑溝があつて、従姉妹たちは水泳が巧みであつた。が、私の家に来ては、そう手近な所に水遊びをする場所はない。一キロほど離れた辺りに忠別川が流れていた。そこにみんなで行ったわけだが、私には生れてはじめての遠距離であつた。帰り道、私は水遊びと太陽の暑さで疲れていた。歩き方が※おぼつかなかつたのだろう。姉と同じ齡の従姉が、いきなり私に背を向けて屈み、

「さ、綾ちゃん、おんぶしてあげる」

と言つてくれた。やれうれしやと、私はためらわずに従姉の肩に手をかけた。途端に姉の百合子の声が飛んだ。

「恵美ちゃん、おんぶしないで！ 癖になるから」

※毅然とした声だつた。いつもの優しい姉の声ではなかつた。

た。私はひどく⑥きまりの悪い思いで、今かけた手を従姉の肩からはなした。

「そうかい」

従姉も立ち上がった。私は、

「おんぶしないで！ 癖になるから」

と言った言葉を、その時美によく納得がいつて受け入れた。私は疲れてはいたが、歩けば歩くことが出来た。疲れてはいたが、誰かに背負つて欲しいと思うほどではなかった。だから私が従姉に背負われようとしたことは甘えであった。私は子供なりに、⑦姉の言った「癖になる」という言葉を、誤りなく受け取ったように思う。自分はもうだいぶ大きくなったのだ。いつまでも人におんぶしてもらってはならないのだ、という自覚がああの時与えられたような気がする。その後私は、誰かがおんぶしてあげようと言つても、「癖になるから」と、姉の言葉をそっくり使つて、⑧コトワるようになった。私にとって、裸に三尺帯を巻きつけて歩いた時よりも、姉にこの言葉を言われた時のほうが恥ずかしかつた。そして、優しい姉にもまして、この時のきびしい姉に、姉らしさを感じたのだった。

(三浦綾子作『暁のうた』より)

※注

器量：顔たちのこと。

居敷あて：着物のおしりあたりにうら側からあてる布のこと。

マイ・シスター：「マイ」は「私の」という意味。「シスター」は姉・妹、両方の意味がある。

二丁半：一丁は約一〇九メートル。

三尺帯：子ども用の帯。一尺は約三〇センチメートル。

滔々たる：水がいきおいよく豊かに流れるようす。

灌漑溝：水を川などから農地に引くためのみぞ。

おぼつかない：ふらふらして危ないようす。

毅然：意志が強くはつきりとしていること。

問一 傍線部①「なるほどと思った」のはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 器量の悪さを悲しむよりも髪をほめられたことを喜んだほうがいいと思ったから。
- イ 器量が良くないと感じている自分が髪をほめられたことがあったから。
- ウ 本の内容が、世間でよく言われているようなうわさ話だったから。
- エ 髪をほめるというやり方は、器量の良い悪いに関係なく適切な方法だと思えたから。
- オ 今まで器量の良い女が髪をほめられているのを聞いたことがなかったから。

問二 傍線部②「誇りたい気持ちがあったから、仲の良い姉妹として育った」とありますが、普通ならばどのようなものだと、筆者は考えていますか。それが書かれている一文を探し、はじめの四字を抜き出さない。

問三 傍線部③について、筆者は「姉らしさ」をどのように考えていると思われますか。最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 気弱であっても妹には厳しいことを言えるということ。
- イ 妹の気持ちを自分のことより優先させて考えること。
- ウ 優しさも厳しさも妹への愛情から出てくるとということ。
- エ 妹の子供っぽい失敗や間違いにも心が広いということ。
- オ 妹の成長のためには周りを気にせず愛情を見せること。

問四 傍線部④「そのこと」とはどんなことですか。文中の語句を使い、二十字以内で答えなさい。

問五 傍線部⑤「私は広い道路の真ん中を悠々と歩いて帰って行った」には、私のどんな気持ちが表示されていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 道の真ん中を歩いて帰るのは気分が良く恥ずかしさもふつとぶよだ。

イ コソコソしているとかえって恥ずかしいので堂々として帰ろう。

ウ 三尺帯を巻いている限り、誰も私を奇妙だとは思わないはずだ。

エ 帯を巻きつけることを思いついた自分はすごいでしょうと見せつけたい。

オ かわいくない私にいつも誰も注目しないが、今はみんなが見てくれてうれしい。

問六 傍線部⑥について、私が「きまりの悪い思い」をしたのは、姉に何を指摘されて恥ずかしかったからなのでしょうか。文中から語句を抜き出さない。

問七 傍線部⑦「姉の言った『癖になる』という言葉は誤りなく受け取った」という部分が示すのはどのような意味ですか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 姉に謝る素直な気持ち。
- イ 自分自身を正しく見る目。
- ウ 従姉への恥ずかしい感情。
- エ 自分のおさなさへの後悔。
- オ 優しい姉に従わずさ。

問八 姉と私のふれあいについて書いた、ひゆ表現（たとえの表現）をふくむ一文を文中から探し、はじめの四字を抜き出さない。

問九 私は姉のことをどう思っていますか。適切なものから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア いちもく置く相手である。
- イ 目の上のたんこぶのようだ。
- ウ 指をくわえて見ている存在だ
- エ すぐ手のひらを返す性格だ。
- オ 熱しやすくさめやすい人だ。
- カ 話の口火を切るのがうまい。
- キ 他人が思うより、しんが強い。

問十 傍線部①②のカタカナを漢字に直さない。